連携による「鳥取沿岸の総合的な土砂管理」の実施

目指すべき海岸の姿を達成するために、流砂系に係わる人々が、土砂に係わる問題を共有し、個々の立場を尊重して各々の役割分担のもと連携しながら土砂問題の解決を図る。

- 土砂管理は、「流砂系[注3)]」「ポケットビーチ[注4)]」を単位とし、「流砂の下手側」、「流砂系内のバランス」に必ず配慮し、土砂問題への対応策を実施する。
- 各管理者は、土砂問題の被害者、加害者意識を捨て、同じテーブルにつき土砂問題を共有し、土砂問題を解決しながら土砂管理の目標を達成する。
- 各管理者は、自分たちが実施する各管理領域での土砂問題の対策が他の領域に与える影響を理解し、それぞれの立場を尊重しながら各々の役割分担のもと１つの目標に向かって協力していくことが必要である。

注３）流砂系とは、流域の源頭部から海岸までの一貫した土砂の運動領域をいう。

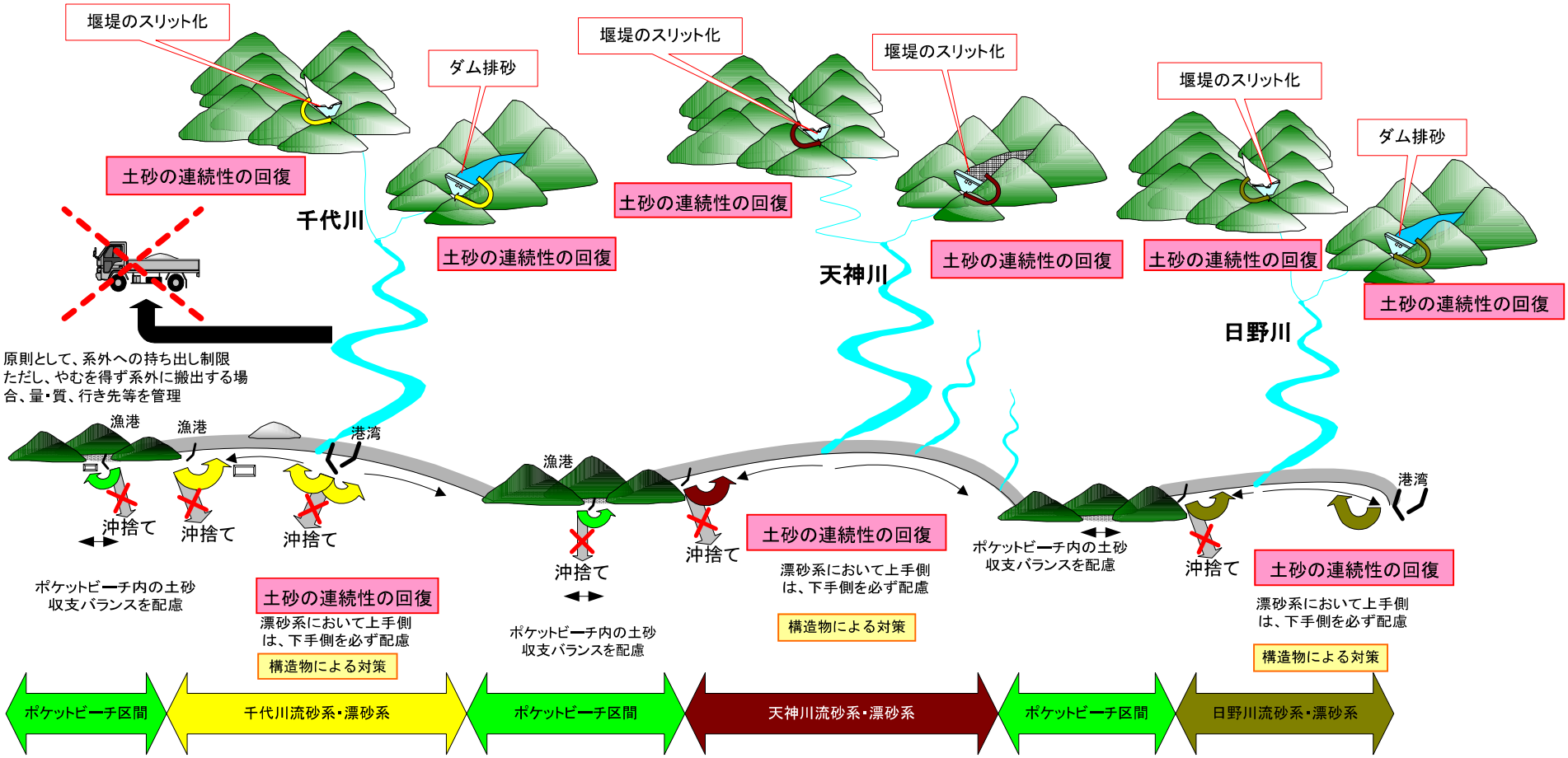
注４）ポケットビーチとは、土砂生産性の高い河川が流入せず、両端を岬や岩礁などに囲まれた自然状態で安定した海浜をいう。

鳥取沿岸海岸保全基本計画の基本理念

県民の財産である白砂青松の海岸を維持・回復し、次世代に継承していくことを目標にして、歴史・文化により育まれた故郷を守り、人々がいきいきと暮らせる魅力ある海岸づくりを目指す。

鳥取沿岸の総合的な土砂管理の目標

・流砂系における量と質（粒径）のバランスのとれた土砂の流れの「連続性」の確保・回復を目指す。
・各管理者、地域住民、利用者が、各々の役割分担のもと連携した管理を目指す。



鳥取沿岸の総合的な土砂管理の目標（目指すべき土砂管理）

PDCA サイクル・情報公開による「鳥取沿岸の総合的な土砂管理」の実施

PDCA サイクル：土砂管理計画（Plan）を立て、対策を実施（Do）し、実施状況等をモニタリング（Check）し、計画と実施の評価（Action）を行うという工程（サイクル）を継続的に何回も何回も繰り返し実施することにより、目標に近づけていく仕組み。

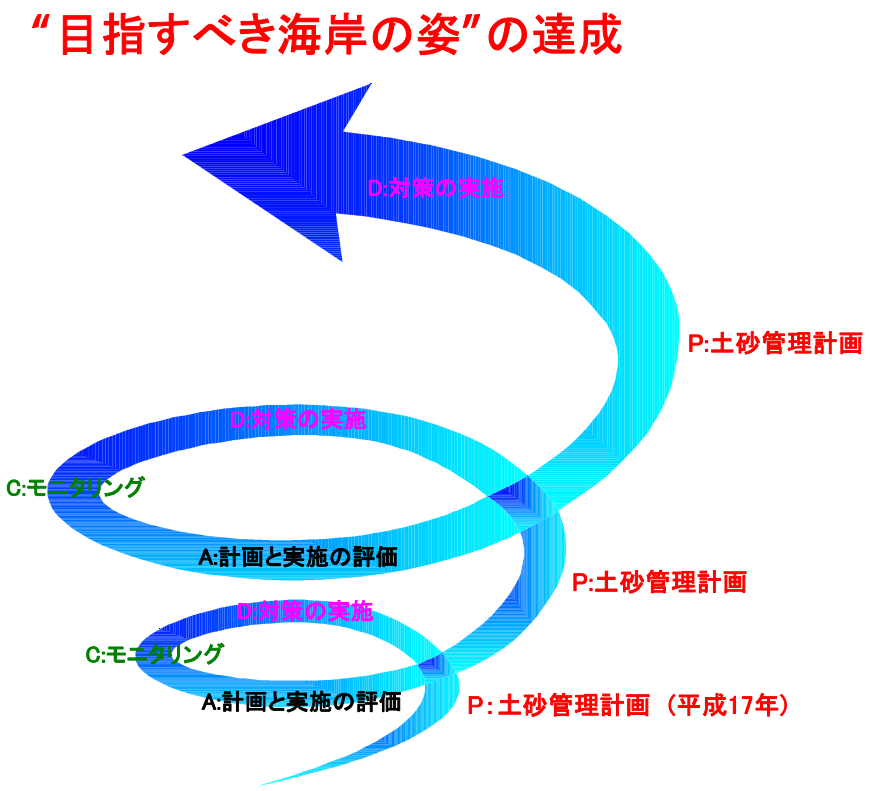


図 4-1　PDCA サイクルの繰り返しによる鳥取沿岸の総合的な土砂管理

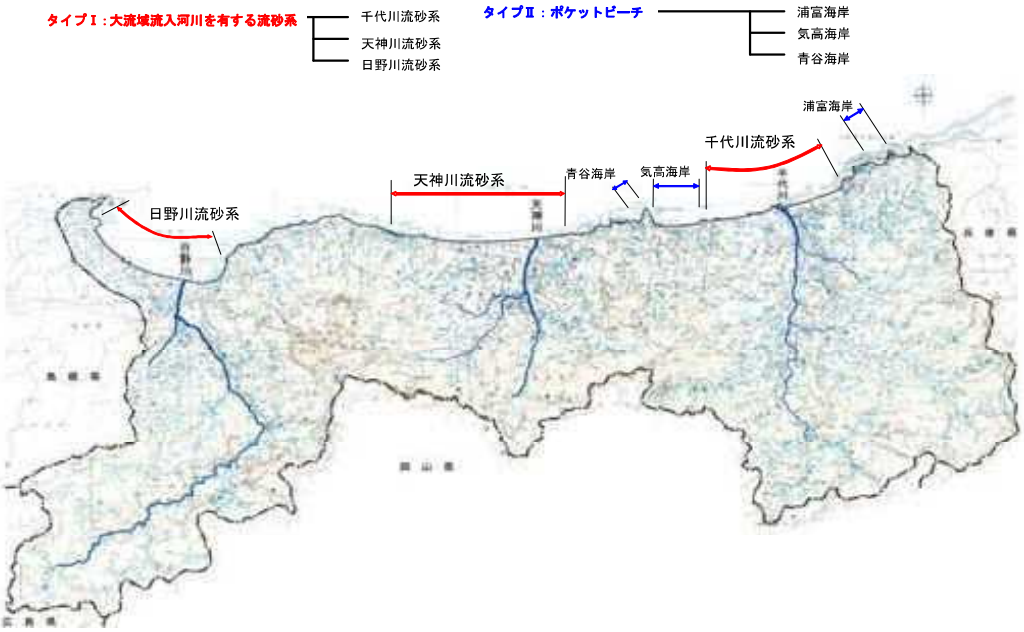
流砂系ごとにＰＤＣＡサイクルにより新たな知見を蓄積し、それまでの土砂管理を評価することによって、次の土砂管理計画を策定し、目指すべき海岸の姿へ向かって継続的に土砂管理を実施する。

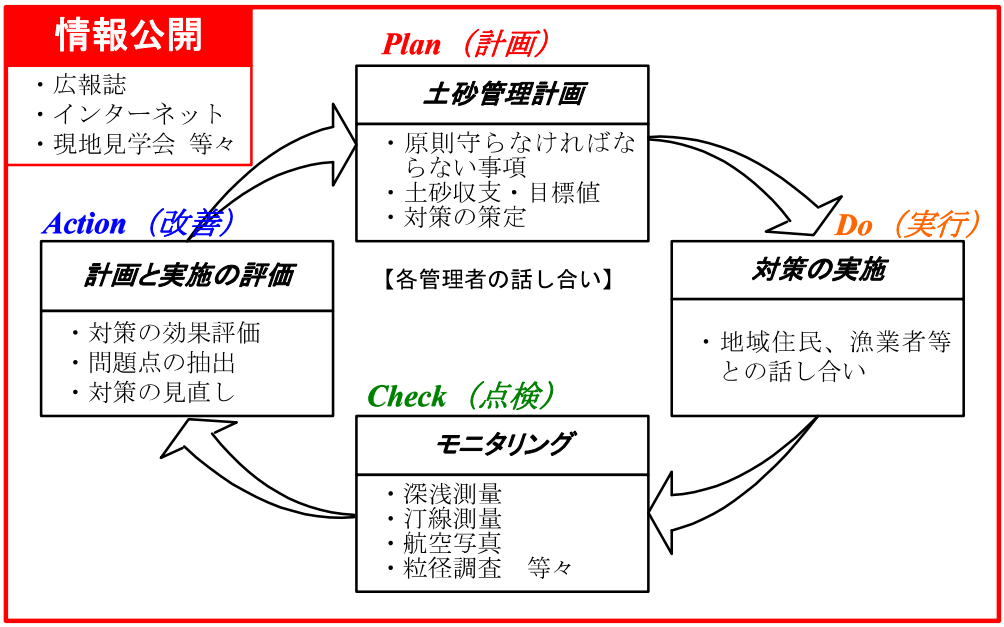
- 各管理者は、PDCA サイクルによって、土砂管理の実施による土砂移動への効果・影響を把握しながら、異常気象や土砂の連続性を阻害する人的行為等に対して順応的に土砂管理を実施する。
- 各管理者は、自然の土砂の流れの回復において、別の場所で副次的な土砂問題が発生する等の人為的な影響があると判断した場合には、その実施を中断し県民への情報公開によって土砂管理計画を修正する。

土砂管理は、県民への情報公開と県民の監視のもとに実施する。

➢ 土砂管理によって目指すべき海岸の姿と具体的な土砂管理計画の内容を県民に示さなければならない。

（代表海岸として、流砂系では千代川流砂系、天神川流砂系、日野川流砂系、ポケットビーチでは浦富海岸、気高海岸、青谷海岸の６つについて土砂管理計画を定める。なお、その他の砂浜海岸についても同様に扱う）





P：Plan=計画、ここでは土砂管理計画（計画の見直し）がPになります。
D：Do=実行、ここでは対策の実施がDになります。
C：Check＝点検、ここではモニタリングがCになります。
A：Action=改善、ここでは計画と実施の評価がAになります。

図 4-2　県民への情報公開と PDCA サイクルによる鳥取沿岸の総合的な土砂管理

5　土砂管理の実施にあたっての留意事項

目指すべき海岸の姿へ向けた土砂管理計画：Plan（計画）

・20 年先、30 年先といったように長期的な視点で土砂管理計画を策定していくことが重要である。

・土砂管理の問題点を踏まえ、各管理者が連携して土砂の流れの連続性を確保・回復するために原則的に守らなければならない事項を定める。これが総合的な土砂管理を進める上で最も重要な事項である。

・「**構造物の設置を要しない（土砂の流れの連続性を確保するための）対応策**」を本質的な対策と位置付ける。この対応策を実施しても、長期的な視点からの土砂収支や費用バランスを加味した上で目指すべき海岸の姿を実現することが困難であると予測される場合には、「**構造物の設置による（土砂の流れを制御・調整するための）対応策**」を実施する。

・長期的な視点のもと、流砂系、ポケットビーチを単位とした土砂収支や費用バランスの評価を含めて個別の海岸の土砂問題の解決にあたる。

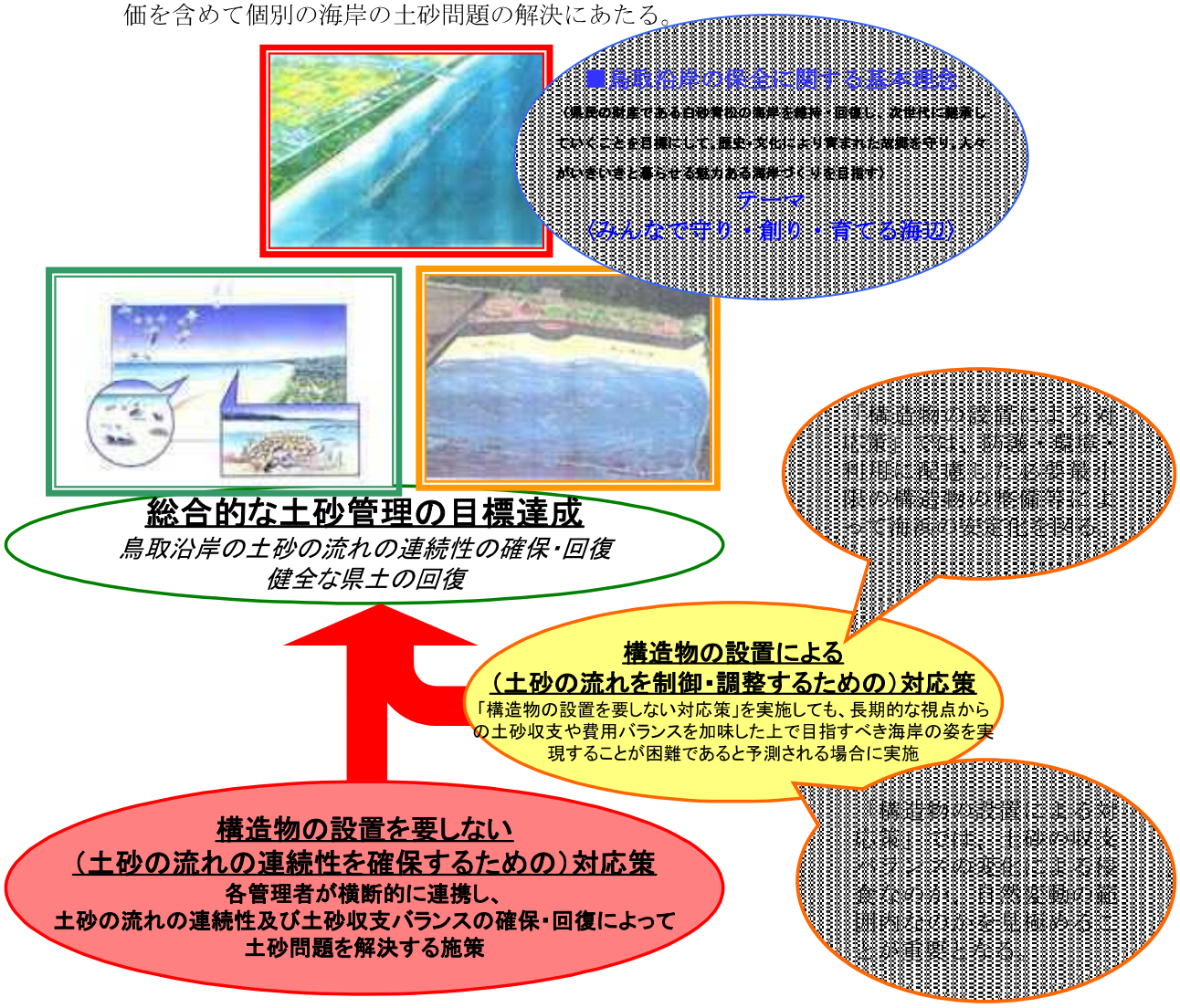


図 5-1　「構造物の設置を要しない対応策」と「構造物の設置による対応策」の関係